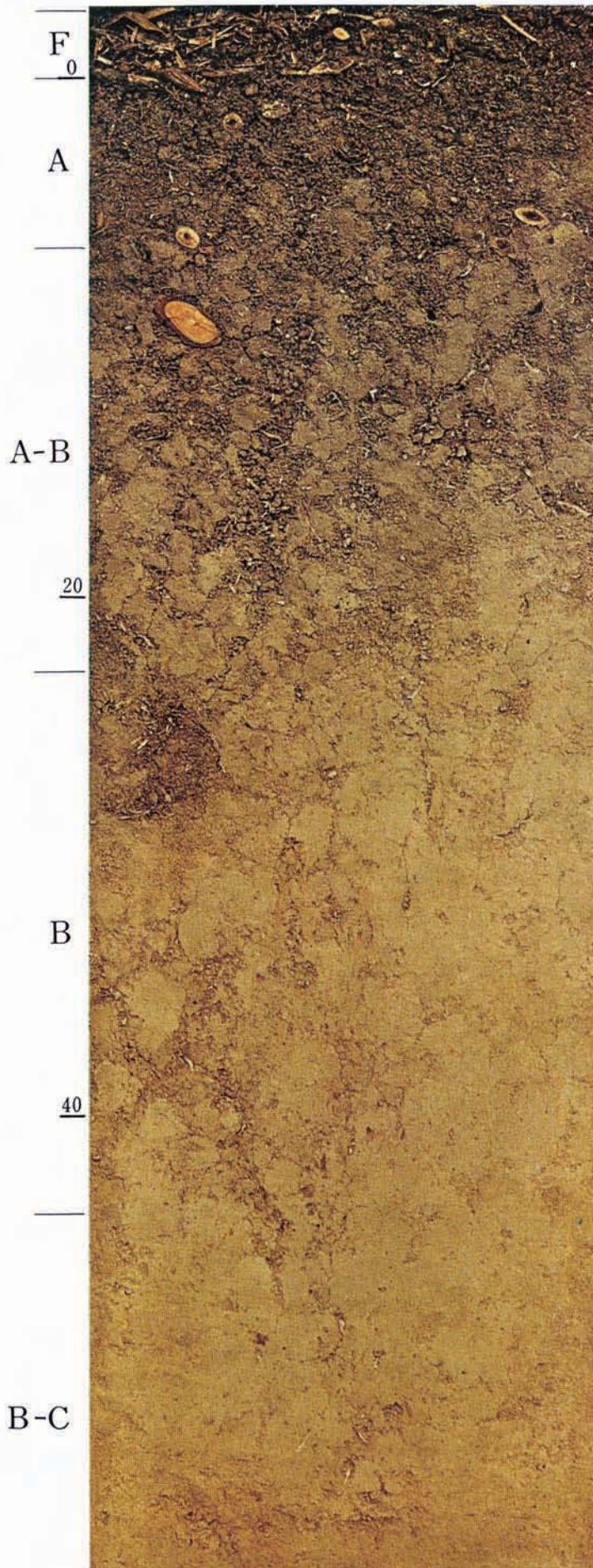


断面 11 B_C

弱乾性褐色森林土



母材料：新第三系砂岩・頁岩

採取地：北海道苫前郡羽幌町

羽幌事業区 129 林班は小班

海拔高：140 m

地 形：凸形緩斜面

方 位：SW

傾 斜：16°

林 相：トドマツ天然林，林床 クマイザサ

断面記載：

F 2 cm ササの半腐朽葉桿。

A 7 cm 黒褐色 (10 YR ²/₃)，腐植に富む，礫なし，埴土，粒状構造（一部堅果状構造）よく発達，軟，やや乾，小根多，下層への推移状態は漸。

A-B 16 cm 暗褐色 (10 YR ³/₃)，一部褐色 (10 YR ⁴/₄)，腐植を含む，礫なし，埴土，堅果状構造よく発達，やや堅，やや乾，小・中根多，下層への推移状態は判。

B 21 cm にぶい黄褐色 (10 YR ⁵/₄)，腐植に乏し，礫なし，埴土，カベ状（一部に堅果状構造），堅，潤，根あり，下層への推移状態は漸。

B-C 20+ 明黄褐色 (10 YR ⁶/₆)，腐植に乏し，礫なし，埴壤土，カベ状，すこぶる堅，潤，根はまれ。

採取年月日：1964年10月29日

この土壌は羽幌川に面した丘陵地の凸形緩斜面に分布する。Bc 型土壌はこのように、河川、海岸に面した緩斜面の凸部や尾根によく見られる。とくに羽幌地方には分布が広い。

A層に粒状および小型の堅果状構造がよく発達している。A-B層には少量の腐植がはいって淡い暗褐色を呈する堅果状構造の部分と、腐植を含んだ粒状構造の小粒とがモザイク状に入りまじっている。B層以下はカベ状、堅密である。

林相はトドマツの疎林、林床はクマイザサが密生して、エゾイヌガヤ、ツタウルシが見られるほか、他の植物は少ない。

この土壌は、ササ生地でなければ、トドマツの天然更新は非常によい。しかし、成長はそれほど良くはない。北海道、東北、北陸を除けば、ヒノキの造林が可能で、よい成長は期待できないが、十分に成林する。マツ類、高海拔地では、カラマツの造林が十分に考えられる。

層 位	C %	N %	C/N	pH (1:2.5)	置換酸度 Y _t	C E C m.e	置 換 性		Ca/CEC	Mg/CEC
							Ca	Mg		
A	5.6	0.37	15	5.20	5.4	26.29	10.00	4.73	38.0	18.0
A-B	2.3	0.16	14	4.95	28.7	20.62	5.62	2.68	27.3	13.0
C	0.9	0.09	10	5.04	17.5	18.93	1.91	0.92	10.1	4.86

層 位	土壌中の細粒(0.2~0.1 mm)の鉱物100分比						土 壌 中 の 粘 土 鉱 物			
	石 英	長 石	火山ガラス	輝 石	頁岩細粒	砂岩細粒	アロフェン	ギブサイト	加水ハロイサイト・ハロイサイト	14~15 Å 鉱物
A	35.7	6.5	1.1	5.4	20.5	30.8	++		+	
A-B	39.5	3.8	1.0	1.4	25.0	29.3	++	+	+	+++
C	22.0	0.9	1.8	0.5	34.2	40.6	++		×	×